

目立ちたくない俺が主人公とかに目をつけられて普通に過ごせない  
だけのよくある話

とある下級の野菜人

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

なんとなく書いたためかなりの残念クオリティ  
それでもおk?

目次

## ヘタレの話

我輩は転生者である。名前はもうある

なんか知らないけど、気がついたら知らない部屋にいて、知らないイケメソと美人が、知らない人と喋っていた

俺？

俺はファツ!?としたあと大泣きした

落ち着いて話を聞いてみるとイケメソと美人は俺のダディとママらしい

そして俺は悟った。あ、これテンプレ転生ですわ、と

まあなっちゃったもんはしょうがないし、第2の人生とか普通は体験できないしね。せつかくだから楽しむことにした

第2の人生を楽しむにあたり、まずは勉強出来るようにならないとなーと思って色んな本を読んだりした

前世では全く興味なかったけど、本って意外と面白いのね。古臭い本とかあの本を開く瞬間の匂いとかたまらん

…いや、別に俺は匂いフェチじゃねえよ!?

ゴホン…次に、チンピラとかに絡まれたりしたときの自衛手段がほしいと思って、武道をやってみた

パピーの知り合いにそういうのが得意な人がいるとのことできっそく習いにいった。サンキューパピー

習いにいったら師範が真空波的なもの出してた。引いた

きつと最終的にあれぐらい出来るようにならないとダメなんだろうなーとか思って何カ月か頑張ってたら出来た。他の人に引かれた。

師範はこつちをニヤニヤしながら見てた。寒気するんでこつち見ないでください。え？明日から特別メニュー？師範直々に組み手？嫌

d

…まあそんなわけで色々やってたら神童とか言われるようになった。泣きたい

俺は目立ちたくなかった…と思ってたけど、そりゃ小学生がそんな

ことしてりや目立つよね…仕方ないね…

そんなこんなしてしばらくあと、パツソウにこんな記事が

『白騎士事件』

「…フアツ!？」

腰抜かした。痛い

どうもここは、インなんたらロックオンストラトス。通称ISの世  
界らしい

マジかよ…俺のいる学校はいまのところそんなでもないけど、女尊  
男卑とかいうのが流行るんでしょ?ちくしょう、マジ震えてきやがっ  
た…怖いです…

これから世界の女たちがどんどんチンピラになっていくのか…前  
世のお父様、お母様。僕はもうダメかもしれない

前世のノベル的なあれでは、よくハーレム狙っちゃうようなのと  
か、ヒロインの誰かとくっついちゃうとかよくあるけど、俺は嫌です  
だってよく考えてみる。ろくなヤツがないぞ?

剣道女はすぐボコりに来るし、ロリ中華は殺り(誤字にあらず)に  
来る。お嬢様は家柄的に論外。男の娘は家族関係ドロドロ。銀髪軍  
人娘は国がブラック過ぎる。生徒会長姉妹も家柄的にアウト

結論Ⅱ普通が一番!

と言うわけで、俺は目立たずひっそり生きて、普通に結婚して、普  
通に死のう。できれば家族に見守られて大往生したいもんだす

中学に入り、そろそろ厨二病への突入が心配される頃、パピーの仕  
事の都合で転校した。まあ、道場にはまだ通うけどね。まだまだ教え  
てもらいたいこともあるし

学校では、一人は必ずいる読書少年として過ごす!目指せ平凡な生  
活!

「織斑一夏です!よろしくお願ひします!」

…フアツ!?

…なんか原作主人公がいた…転校したい…

ま、まあ、別に話しかけられなきゃ良いだけの話だし、主人公さんが俺みたいなの話しかけるとかないし（震え声）

「なあ、お前いつつも何読んでんだ？」

とか思ってた時期が俺にもありました…泣きたい…

なんで来んだよお！やめろオ！（建前）やめろオ！（本音）俺は原作介入とかやりたくないんだあ！

正直、主人公のコミュ力を舐めてた…だが関わってしまったものは仕方ない…こうなったら、俺はあくまでただのモブのように接するしかない！

「ほら紫藤、早く行こうぜ！」

…なんか予想以上に懐かれた…何故だ…俺に構ってる暇があったら、ヒロインを構えよ…俺を射殺さんばかりに睨んできてるだろあの中華小娘！

女友達より、男友達優先とか…はっ！まさかコイツホモ…!?!…離れなきゃ（危機感）

「…今日は読みたい本g」

「本なんていつでも読めるだろ？一緒に帰ろうぜ」

「…学校の仕ごと」

「じゃあ終わるまで待つ」

「…寄りたいところがあって、遅くなるかm」

「今さらそんな遠慮すんなよ。俺と紫藤の仲だろ？」

…知ってたか？織斑からは逃げられない！（絶望）

珍しく一夏（本人にそう呼べと言われた）と一緒にやなく、とても  
素敵な帰り道

「やあやあ！君が紫藤暁くんだね？」

…ワッツ？

「はじめまして〜！今、全世界で話題沸騰中のぷりちい束さんだよ〜  
！ぶいぶい♪」

天災とエンカウントした…帰りたい…

なんで俺のところに来たし…というかなんでこんなに主要人物が  
集まってくんの？バカなの？

何か色々と聞かれて、心臓はバクバク、汗はダラダラな状態で必死  
こいて答えてたら、なんか納得したあと

「ふふっ♪楽しみにしててね！あつくん♪」

なんて言って帰ってった

あれ…？「あつくん」？…やべえ…（戦慄）天災に気に入られた…  
俺の普通の生活が…ああんまりだあああああああ!!!

しばらくして、また一夏から逃げ回ったり、中華小娘にライバル認  
定されたり、一夏から逃げ回ったりして…ついにあの日。一夏がイン  
なんたらさんを動かす日がきた

そして全国 I S 適性検査 (♂) も

それで俺の番が来たわけなんです…

——キイン

「えっ…」

「嘘…男のクセに I S が!？」

… I S が起動してしまった…死にたい…